

平成30年 第4回喬木村議会定例会一般質問

平成30年12月8日 午前9時00分開議

会場： 喬木村役場 議場

順序	氏名	質問事項
1	後藤 澄壽	○小中学校の「支援員」について ○ICTを活用した国際交流教育について
2	下平 貢	○ガイドウェイ工事に対する安全対策は ○コンベンションホール建設の実現性は ○ガイドウェイ跡地利用の事業の方向性、進め方は
3	福澤 眞理子	○風疹感染予防対策について
4	櫻井 登	○土地の利用計画について ○ICTプロジェクトについて・情報化社会の構築について ○商業・工業の振興について
5	木下 温司	○第5次喬木村総合計画の進捗について
6	小池 豊	○森林税の使い方と今後について ○学校コミュニティスクールのあり方について
7	東原 靖雄	○農地の農用地基準について
8	後藤 章人	○危険ブロック塀撤去等に対する補助金交付のその後 ○災害の対応について
9	昼神二三男	○ニホンザル対策について ○堰下ガイドウェイへの水道管の先行敷設について
10	佐藤 文彦	○保育園の運営について ○保・小・中連携について

平成 30年 11月 20 日

喬木村議会議長 下岡 幸文 殿

喬木村議会議員 後藤澄壽

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質 問 事 項	質問の要旨	質問相手
<p>小中学校の「支援員」について</p> <p>ICTを活用した国際交流教育について</p>	<p>(1) 小中学校の「支援員」の数、対象児童生徒の数 支援内容はどのようになっているか。</p> <p>小学校の外国から来た児童に対する語学支援については、効果を上げているという話を聞いている。</p> <p>(2) この「支援員」をお願いすることによって、児童生徒にどのような教育効果があらわれたか。</p> <p>「中学生と議員の意見交換会」において、国際交流をどう進めていくのか、という質問があった。 子どもたちの国際交流に対する関心の高さをしめしていると思う。 そこで、喬木村で力をいれて取り組んでいるICT教育を活用した国際交流教育の可能性を探ってみたらどうか。</p> <p>(1) ICT教育の一環として、喬木第1小学校とオーストラリアの学校を結んで交流をしたと聞いている。この交流によって、児童にどのような変化があらわれたか。</p> <p>ある調査によると、日本の子どもたちの英語によるコミュニケーション能力は世界の中で下位にあるとのこと。こうしたコミュニケーションの能力を高めるために</p> <p>(2) 小学校・中学校でそれぞれ、外国の小学校・中学校とインターネットで結んで、同じ英語の授業を受けるとか、さらに一歩進めた国際交流教育を進める道を探ってみたらどうか。</p>	<p>林田教育委員会事務局長</p> <p>林田教育委員会事務局長</p> <p>林田教育委員会事務局長</p> <p>林田教育委員会事務局長</p>

予め議長に通告内容を提示し、許可を得て期日までに正本を提出してください。

平成30年11月27日

喬木村議会議長

殿

喬木村議会議員 下平 貢

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質 問 事 項	質問の要旨	質問相手
1. ガイドウェイヤード工事に対する安全対策は。	<p>ガイドウェイヤードの工事開始にあたり、リニア開通に向け、期待と希望をもって見守っていきたいところですが、周辺の住民においては、むしろ騒音や、工事車両の通行など事業全般について不安を抱えていることは、世の常として当然のことと思われます。詳細な工事計画がこれから示されると思いますが、本村における交通障害や安全確保について、現段階においての具体策はどのようにお考えか。</p>	井澤高速交通対策課長
2. コンベンションホール建設の実現性は。	<p>ガイドウェイヤードの跡地利用について、昨年度末にコンベンションホール建設予定地に立候補した経過もありますが、本村としては様々な事業を想定して準備を開始していくことが大切だと考えます。想定される規模が定まっていない状況ではコンベンションホールの事業費も想定しづらいところですが、他地域のコンベンションホールの事業費の概況を参考にすると、その規模、構成等により差がありますが、百億から数百億円といわれています。こうした事業を進めていくには並大抵の準備では達成出来ないと思います。広域連合の中でも様々な意見が出ていると聞いています。コンベンションホールの建設の可能性は現段階でどの程度かお伺います。</p>	市瀬村長
3. ガイドウェイヤード跡地利用の事業の方向性、進め方は。	<p>コンベンションホール以外での事業とすれば、小さな拠点作りや村作り委員会などでいくつかの提案も答申されています。</p> <p>中学生からの提案にもありましたが、村の中心は、店舗展開された賑やかな町並みがあってほしいという意見もあります。村の活性化の観点からもそうあってほしいとの考えも然りだと思います。しかしながら、村で何かをしようとするれば多額の事業費を想定しなければなりません。こうした状況を考慮すると、5ha余におよぶ広大な土地利用を、村単のみの取り組みが果たして村民益に繋がるかは疑問です。あらゆる視点から、現実性のある事業にもっていくことが大切だと考えます。今後の事業の考え方や方向性、進め方をどのようにお考えかお伺います。</p>	市瀬村長

平成 30 年 11 月 28 日

喬木村議会議長 下岡 幸文 殿

喬木村議会議員 福澤真理子

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質 問 事 項	質問の要旨	質問相手
<p>風疹感染予防対策について</p>	<p>首都圏を中心に風疹の流行がみられ、風疹患者累積報告数は2032人となった。飯田保健所管内ではまだ報告がないが、全国に広がっており、報告のない県は4県のみとなっている。長野県においても11月18日までで15人の報告がある。心配なことは、妊婦を通して赤ちゃんに影響が及ぶことである。妊娠初期に感染すると、心臓や目、耳などに障害が出る先天性風疹症候群を引き起こす恐れがあることだ。患者の96%が成人で、男性が女性の4.4倍多いとのことである。30代～50代の男性では、予防接種の制度がたびたび変わり、接種していない人が多い。女性においては、妊娠する前に抗体の有無を確かめ、なければ早めに接種の必要がある。同時に周囲の人が予防することも大事である。村においては、広報で注意喚起を図っているが、危機感をもって受け止められているように感じられない。</p> <p>①感染予防対策が必要と思うがどう考えられるか。</p> <p>風疹はワクチン接種をすることで、予防が可能な病気である。抗体検査は保健所で受けられるが、対象が限られている。県は風疹無料抗体検査を30～50代男性にも広げる検討を始めたとの新聞報道があった。病院などで検査を受けると概算で13000円程との情報を得た。職場での感染を防ごうと接種費用を全額負担する企業もある。風疹ワクチン接種は保険はきかず自費診療で、6,300円から8,000円ほどかかり、負担も大きい。</p> <p>②一部でも村で負担することは考えられないか。</p>	<p>飯ヶ浜保健福祉課長</p> <p>飯ヶ浜保健福祉課長</p>

予め議長に通告内容を提示し、許可を得て期日までに正本を提出してください。

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨	質 問 相 手
	<p>第5次総合計画も中盤に入ります。 計画の進捗と今後の取組みについてお伺いします。</p>	
<p>1 土地の利用計画について</p>	<p>(第5次総合計画書より抜粋) (計画書 P26～27) 土地利用の基本方針によれば～ (前略) その利用のあり方は、村づくりの基礎となる極めて重要な問題であることから、村民との協働のもと総合的かつ慎重に検討を重ね村民全体の合意形成を図りながら計画を定めていく必要があります。</p> <p>基本方針では、村土を概ね3つの地域に区分し、その特色に応じた適正な土地利用を図ることとします。</p> <p>「下段地域」は村の中心市街としての役割を担っており、産業機能や公共サービス機能等が集積しています。 この地域は、リニア中央新幹線の長野県駅が設置される飯田市と隣接しており、優良住宅地や、商・工業用地としてまた今後増加が期待される交流人口の受け皿となる産業や観光施設等を整備してゆき、交流活性化拠点としての活用を検討していきます。(後略) と記述があります。</p> <p>▷ この「下段地域」の展望は「計画書通りに進めていくことが可能の地域と、伊久間地域一帯には優良農地の「第1種農地」が混在しております。この伊久間地域をどのように描かれているのか、ご答弁願います。</p>	<p>松島産業 振興課長</p>

質問事項	質問の要旨	質問相手
▷	<p>「下段地域」、特に伊久間地域の地権者で、将来にわたり耕作困難な方がおられます。農地転用を目的とする「賃貸、または譲渡」を検討したい旨のお考えがあります。</p> <p>これらの「農地の転用に関わる把握」は必要と考えますが、地権者に対しての「意向調査」は実施されたのでしょうか。或いは「意向調査」を実施するお考えはありますでしょうか。お訊ねします。</p>	松島産業振興課長
▷	<p>「地権者の把握」は、最も重要な「初期手段」と考えます。「地域住民の合意形成に繋がる。今後の方向性を示す糧になる」。村の展望を具現化するために欠かせないものです。意向調査に基づいた土地利用計画の検討を村民にお示し、関係諸法の対応によって調整等すべきと考えますが、いかがでしょうか。</p>	松島産業振興課長
▷	<p>「下段地域」、特に伊久間地域についての展望をお訊ねしましたが、農業の担い手が少ない中で「農業振興と地域開発との土地利用の整序」が必要と考えます。そのために「村は何をどう検討することが最善」かお訊ねします。</p>	松島産業振興課長
▷	<p>都市計画区域に当たらない本村ではありますが、農業振興地域内の農用地区域であっても、準都市計画区域の用途地域に、その土地利用計画の変更をなすなどの手段はあるのではないかと考えますが、今後の「村の発展」を思うときに現状ではなかなか動きが見えにくく分かりません。「村の発展」を見える施策にしていくことが、村民の「この村をどう考えているのか」という疑問に答えることに繋がります。質問趣旨の見える施策について、ご答弁をお願いします。</p>	村澤企画財政課長

質問事項	質問の要旨	質問相手
<p>2 ICTプロジェクトについて</p> <p>情報化社会の構築について</p>	<p>(第5次総合計画書より抜粋) (計画書 P15、P32、P60～61)</p> <p>(前略)</p> <p>ICTの進歩は、教育、交通、医療、福祉、防災など私たちの生活や生産活動のあらゆる場面に普及していき、より一層の技術革新が進展すると考えられます。</p> <p>私たちがICTを十分に活用できるようになれば、これからの少子高齢化や人口減少、グローバル化などの時代の変化に対応していく大きな力になると考えられます。</p> <p>(後略)</p> <p>▷ 全村に光ケーブルの高速通信網が整備されております。この活用は、教育、医療、福祉、雇用、農業、行政などの様々な分野に必要不可欠ですが、特にICTによる遠隔授業では、文科大臣の表彰を受賞した先進地として、喬木村が広く知られております。しかし、それぞれの分野での利活用の面では十分に使いこなされていないなど課題も記述されております。医療、福祉、農業などの分野ではICT利活用が特に期待されると考えますが、村のICTプロジェクトの具体化をお訊ねします。</p> <p>▷ 情報化社会の構築のテーマに、(1)「SWOT分析による現状と課題」としてそのまとめが記載されております。また、(2)「施策への展開」として記載されている事業などに、「SNSを活用した村の情報提供と収集」とか、「高齢者への情報学習会実施」が挙げられております。</p> <p>これらの事業の具体的な成果とか課題には、どんなことがありましたでしょうか。お訊ねします。</p>	<p>林総務課長</p> <p>林総務課長</p>

質問事項	質問の要旨	質問相手
3 商業・工業の振興について	<p>(第5次総合計画書より抜粋) (計画書 P80～81)</p> <p>SWOT分析の表を眺めて見ますと「機会や強み、積極的戦略」に、「弱みや段階的戦略」など、その記載内容は全くその通りだと思います。</p> <p>さらに、その中のいくつかは「キーワード」になっています。そして、それら「キーワード」を繋ぐことにより「土地利用計画や、ICTプロジェクト、情報化社会の構築」との関わりはさらに強靱化するかと思いますが、村の「商工業・サービス業の振興策」はこの観点においてどのような施策か、村の将来像を見据えた施策についてお尋ねします。</p>	松島産業振興課長

平成 30 年 11 月 30 日

喬木村議会議長 殿

喬木村議会議員 木下温司 ㊞

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質 問 事 項	質問の要旨	質問相手
1、第5次喬木村総合計画の進捗について	1、福祉保健医療の分野で、出会い・結婚支援についてあまり成果が上がっていないという事ですが、先日行われた「鬼ごっこ婚」の成果についてお聞きします。	飯ヶ浜保健福祉課長
	2、北部事務組合の「愛ねっと北部」の活動状況と今後のかかわりについて伺います。	飯ヶ浜保健福祉課長
	3、県の「ながの結婚マッチングシステム」との関わりについて伺います。	飯ヶ浜保健福祉課長
	4、社会基盤の分野で、空き家対策が今後の課題と思いますが、今後に向けた対応について伺います。	村澤企画財政課長
	5、生活環境分野では、安心・安全な村づくりの為、防災に対する住民意識の向上に向けた、取り組みについて伺います。	林総務課長
	6、産業分野では、喬木村の魅力発信に向けた観光政策について伺います。	松島産業振興課長
	7、たかぎスポーツクラブの現状と今後に向けた取り組みについて伺います。	林田教育委員会事務局長
	8、人口減、高齢化による地域コミュニティの維持に向けた対策について伺います。	林総務課長

質問事項及び要旨の番号は適宜追加ください。

一般質問通告

次のとおり通告いたします。

質問事項	質問の要旨	質問相手
1. 森林税の使い方と今後について	<p>① 喬木村には、森林が多く森林の有効活用が期待される場所ですが、長野県では500円の森林税が徴収されています。森林税の使い道については、森林整備、森林に向かう道路整備、花木の植栽等利用条件が幅広くなってきました。喬木村での利用をお聞きします。</p> <p>② 村内では、竹林が非常に増加してきており、伐採・整備したいとの声をあちこちで聞きます。今でも伐採に対する助成措置はあるわけですが、素人での伐採整理等対応は大変です。また伐採した後の処理がされずにいると、2～3年で元に戻ってしまいます。森林税を利用しての有利な処理対応方法をお聞きします。</p> <p>③ 国でも、地球の温暖化防止策、国土保全、水源の確保等、森林管理を行う財源として、将来500円～1,000円を森林環境税として徴収する計画があるようです。森林の長期的な活用計画、利用計画、国に併せた計画等ありましたらお聞かせください。</p>	<p>福澤生活環境課長</p> <p>福澤生活環境課長</p> <p>福澤生活環境課長</p>
2. 学校コミュニティースクールのあり方について	<p>① 喬木コミュニティースクールが4月よりスタートしました。地域と学校がいっしょになって教育を行う学校、保護者や住民が学校教育に参加できる学校という事で、大変に良い事だと思います。現在コミュニティースクールとして取り組まれている様子についてお聞きします。</p> <p>② 学校教育のうちに地域の良さを学ばせる、経験させる事は、大変に良い事だと捉えます。将来大人になった時、自分が育った地域で暮らしたいと思ってもらえる様な育て方、教育が出来たらと思うところです。またコミュニティースクールでは、地域と一体となって特色のある学校を進めていく事のできる仕組みづくりが取り上げられています。特色のある学校づくりは、どう捉えているかお聞きします。</p>	<p>丸山教育長</p> <p>丸山教育長</p>

平成 30 年 11 月 29 日

喬木村議会議長 下岡 幸文 殿

喬木村議会議員 後藤 章人

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質 問 事 項	質問の要旨	質問相手
<p>1. 危険ブロック塀撤去等に対する補助金交付のその後</p> <p>2. 災害の対応について</p>	<p>①補助金交付決定後 3 カ月が経った。この時点ではそれほど多くの実績は無いと思うが、今後住民の皆様にも知ってもらう手立てはどう考えているか。</p> <p>②倒壊の恐れのあるブロック塀のチェックは、どのようになっているか。通学・通園路等に面している塀で公共のエリアでない個人の場所には、少し立ち入って話しても良いのではないか。</p> <p>今年は台風の発生が多く、当村でも避難準備勧告が出された。それぞれの避難所の状況をお聞きしたいと思います。</p> <p>①現場で対応した区もしくは自治会関係者又、民生児童委員から現場での様子、要望など生の声を聴き状況を把握しているか。</p> <p>②避難所は、宿泊施設では無いので、快適に過ごせるか否かは別として詳しい情報を得るなど安心して過ごせる場であったか。</p> <p>③被災者の声として、「罹災証明書の発行に時間がかかり非常に不便を感じた」「住む所の確保を早急に」という声を聴いたことがある。実際に被災した時、被災者は何が 1 番困るのか、また何を 1 番望むのか調べる必要があると思うが。</p> <p>④当村には災害時の拠点となる施設、アスポがあります。ここを使ってあらゆる場合を想定した被災した時の行動の訓練が必要ではないか。行政、ボランティア等を含めて。</p>	<p>林総務課長</p> <p>林総務課長</p> <p>林総務課長</p> <p>林総務課長</p> <p>林総務課長</p> <p>林総務課長</p>

予め議長に通告内容を提示し、許可を得て期日までに正本を提出してください。

平成 30 年 11 月 30 日

喬木村議会議長 下岡 幸文 殿

喬木村議会議員 昼神 二三男 ㊟

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質問事項	質 問 の 要 旨	質問相手
1. ニホンザル対策について	<p>平成 22 年度に設置した野生鳥獣被害防止柵の効果については、シカやイノシシの姿を見かけることが少なくなったことから、設置の効果は確実に上がっている。</p> <p>一方、住民からはニホンザルの目撃情報が聞こえてくるようになった。</p> <p>Q1 喬木村におけるニホンザルによる農作物の被害状況の報告は？</p> <p>Q2 現状の防止柵の構造ではニホンザルには効果がないと思われる。対策についての検討は？</p> <p>Q3 広域又はブロックでの対応が必要と思うが？</p>	<p>松島産業振興課長</p> <p>松島産業振興課長 福澤生活環境課長</p> <p>福澤生活環境課長</p>
2. 堰下ガイドウェイヤードへの水道管の先行敷設について	<p>リニア中央新幹線のガイドウェイ製作ヤードとなる堰下地区において、耕土すき取りや調整池整備、排水路設置などの付帯工事が始まる。</p> <p>跡地の具体的な利用計画がない中ではあるが、5.3ha 余にわたる広大な土地の土工事に併せて、ヤード跡地の利用を勘案した水道本管を先行敷設することにより、メリットが望めるのではないか？</p>	<p>福澤生活環境課長</p>

平成 30年 11月 30日

喬木村議会議長 殿

喬木村議会議員 佐藤文彦 ㊤

一 般 質 問 通 告

次の通り通告します。

質 問 事 項	質問の要旨	質問相手
1、保育園の運営について	<p>① 今後の保育園の運営について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育所あり方検討会からの答申が出され、その後、アンケート調査も含め検討が進められていると承知している。既存の保育園の課題解決の方法を検討・着手する上で、今後の方向性を示す必要がある。 <p>Q 統合へのお考えは？</p> <p>※答弁内容に応じて、下記の質問を追加する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既存の保育園の現在の課題解決を検討する上で、修繕やエアコン整備など、今後のスケジュールによって、内容の検討は必要。 <p>Q どのようなスケジュールで進めるか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ リニア工事に関連して、企業移転や住宅の新設が想定される中、早めの用地取得が必要。 <p>Q 建設場所の想定は？</p>	<p>市瀬村長</p> <p>林田教育委員会事務局長</p> <p>林田教育委員会事務局長</p>
2. 保・小・中連携について	<p>② 保・小・中連携について。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校の大規模改修の時期を迎える。小中一貫校（義務教育学校）を進めることで、大規模改修も行えるのではないか？それに伴い、空いてくる土地に保育園を建設することも、方策の一つとして考えられる。 <p>Q ICT 教育を進める中、「教育の村」として、今後、保小中連携を進める中で、それぞれの課題（保育園建設・中学校大規模改修）をどのように解決していくか、お考えを伺う？</p>	<p>市瀬村長</p>